

ブログ「石油と中東」：[https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki\\_1943](https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー・サウジアラビア：<http://mylibrary.maeda1.jp/SaudiArabia.html>

マイライブラリー：A 2 8

(注)以下の人名、肩書、会社名等はいずれも2013年当時のものです。

アル・ファイサリア財閥家系図：<http://menadabase.maeda1.jp/3-S05AlFaisaliah.pdf> 参照。

## サウジアラビアの財閥シリーズ5：アル・ファイサリア財閥

Al Faisaliah Group

2013年3月

前田高行

### 1. アル・ファイサリア財閥の特色

サウジアラビアの第3代国王ファイサルの長男アブダッラーが父王の名を冠して創立したアル・ファイサリア・グループは世界最大の乳牛飼育場から生産される酪農製品をベースとした食品部門や、ソニー、マイクロソフトの代理店として国内市場を押えるエレクトロニクス部門を中心とする強力な企業集団を形成している。現在ではアブダッラーと彼の最初の王妃ジョーハラとの間の3男アブドルラハマンを中心に同母の兄弟やその孫達によってグループは支えられている。因みに同じアブダッラーの息子ではありアブドルラハマンの異母弟に当たるサウド王子もSaudi Investment Group & Marketing社を中核とし有力旅行代理店STTB社を含む企業集団を経営しているが、これはアル・ファイサリアグループとは別の独立した企業グループである。アブダッラーの一族はサウド家の王族の殆どが大臣など政府の要職に就くケースが多い中でビジネス界で活躍する異色の王族集団である。

なお、アブダッラーの異母弟には、サウド外相、トルキ駐英大使など政界の重要人物も多く、またアブダッラーの異母妹は他家の有力王子に嫁いでおり、ファイサル家はサウド王家の中で、ビジネス、政治、閥閥等多面的な顔を持っている。

### 2. 沿革

アル・ファイサリア財閥はファイサル第3代国王の長男であるアブダッラーが1970年に創立したアル・ファイサリア・グループからスタートした。彼は当時父ファイサル国王のもとで内相の要職にもあったが、1975年に父王が暗殺されて大きな転機が訪れた。次代のハリド国王が病弱のためファハド皇太子(当時、後の第5代国王)が実権を握り、いわゆる「スデイリ・セブン」(ファハドを長男とする同腹の7人兄弟)が政府機関の中枢を独占するようになり、政界での活躍の道を閉ざされたアブダッラーは以後、政治分野での活躍を自分より若い異母弟に委ねビジネスに専念することとなる。彼は父王の時代に払い下げを受けた(無償であったと推定される)広大な砂漠の土地に世界最大の畜舎を建設し数万頭の乳牛を飼育して牛乳等の酪農品を生産、国内にコールド・チェーンを築き上げて食品市場の最強企業の一つとなった。一方でアブダッラーはソニーと総代理店契約を結び、国内の家

電・エレクトロニクス市場も支配している。

アブダッラーが2007年に亡くなった後は、3男アブドルラハマンがグループの総帥として指揮を取っている。酪農業、家電エレクトロニクスなど主要分野はアル・ファイサリア・グループとして彼の最初の妻との間にできた息子やその孫達に委ね、Saudi Investment Group & Marketing社を中核とするもう一つの企業グループは3番目の妻の一人息子サウド王子（サウド外相とは別人）が実務を取り仕切っている。

### 3. アブダッラー及びその息子達

アブダッラーは1921年にファイサル第3代国王とスルタナ妃の間の一人息子として生まれた。スルタナ妃は名門スデイリ家出身であり、初代アブドルアジズ国王の寵妃としてファハド第5代国王、サルマン現皇太子など7人の男子(いわゆるスデイリ・セブン)を生んだハッサ・スデイリ妃の実妹である。従ってアブダッラーとサルマン皇太子との関係は、父方で見た場合叔父一甥の関係であるが、母方で見ると従兄弟同士と言うことになる。また彼の父親であるファイサル国王は生涯に4人の妻を娶り、アブダッラーには実弟は無いが、サウド現外相を含め多数の異腹の兄弟がある。またアブダッラー自身は3人の女性と結婚し9人の息子がいる。このように複数の女性との婚姻により多数の子供並びに入り組んだ姻戚関係が形成されることはサウジアラビアでは特に珍しいことではない。

### 4. アル・ファイサリア財閥の概要

アル・ファイサリア財閥はグループのホールディング会社Al Faisaliah Group Holdingを中核とし、下記の6つのビジネス部門から成り立っている。

- (1) レストラン経営を含む食品・飲料部門
- (2) コンシューマー・エレクトロニクス部門
- (3) 医療部門
- (4) 技術インフラ部門
- (5) 化学品部門
- (6) IT部門

Al Faisaliah Group Holdingは株式会社であるが、非上場であり株式の9割は以下のごとくファイサル一族が握っている。

名前(創始者Abdullahとの続柄)	持株比率
Prince Abdulrahman Bin Abdullah Al Faisal(三男)	11.38%
Prince Faisal Bin Abdullah Al Faisal (八男)	11.38%
Prince Mohammed Bin Abdullah Al Faisal (二男、昨年死亡)	11.38%
Prince Mohammed Bin Khaled Abdullah Al Faisal(長男の息子)	11.38%
Prince Saud Bin Abdullah Al Faisal (九男、STTB会長)	11.38%
Prince Sultan Bin Abdullah Al Faisal (四男)	11.38%

Prince Turki Bin Abdullah Al Faisal (五男)	11.38%
Princess Sultana Al Abdullah Al Faisal (長女)	5.67%

非上場であるため売上、利益、資産等の財務状況は不明である。従業員数はグループ全体で約5千人と見られる。

グループ6部門を構成する企業群はおよそ次のとおりである。

#### (1)食品・飲料、レストラン経営部門

国内最大の酪農製品、食肉、果汁飲料の製造販売企業。

AlSafi Dairy、Al Safi-Danone、Wasmi Meat、Areen Juice、Steakhouse Restaurantsの五つの子会社で構成されている。

##### a)Al Safi Dairy Company

1979年設立。3,500ヘクタールの世界最大の牧舎に乳牛3万2千頭を飼育し、日産60万リットルの牛乳を生産する(ギネスブック公認)の牛乳生産業者である。酷暑と砂漠の国サウジアラビアでは牧草の茂る放牧場は不可能であり、乳牛は空調の効いた牧舎で輸入飼料を与えて飼育される。従ってAl Safi Dairyの農場は資本集約型「ミルク生産工場」と呼ぶのが相応しいようである。生産された牛乳はグループ企業のAl Safi-Danone社(下記)に供給され、或いはAl Safi Internationalを通じて外販されている。サウジ1000社番付2003-04年版では82位、売上高6億SR(約160億円)、従業員数2,600人。

##### b)Al Safi Danone

Al Safi-Danone社は仏ダノン社(日本では「味の素」と提携)との合弁事業であり、年間30万トンの酪農品を製造、その製品は国内はじめクウェイト、UAE、カタール、オマーン等11カ国に展開している35カ所の流通センターを通じ3万店の小売店で販売されている。

出生率が高く乳幼児の多いサウジアラビアではミルクその他の酪農製品の市場規模は大きく、メーカーが乱立しているが、Al Safi-Danone社はAlmarai社と並ぶ二大メーカーである。

##### c)Al Safi International

Al Safi Dairyの農場で生産されている牛乳を他社に販売している。また農場経営に関する世界の先端技術による系列農場のIT化なども行っている。

##### d)Alfa Foods

1982年に設立されたステーキレストラン「The Steak House」を運営する部門として2003年に独立。リヤド、ジェッダ、ダンマンなど国内11カ所に展開。イタリア料理Piatto Restaurantチェーンを近くオープン予定。

詳細は<http://www.alfaisaliah.com/index.asp?id=124>参照。

#### (2) コンシューマー・エレクトロニクス部門

家電製品、コンピューターの輸入販売を手がけ、また国内初のパソコン組立事業も行っている。本部

門は下記の三つの子会社で構成されている。

**a)Modern Electronics Company**

ソニーの総代理店であり、30年前の発足時にスタッフ3名、年商2百万SRにすぎなかった同社は、現在では従業員600人、年商9億SRに成長した。国内に600社のディーラー、40のショールーム、16のサービスセンターを抱え、市場占有率は40%に達している。

**b)Al Faisaliah Integrated Media**

米国ヒューレット・パカード社の代理店であるほか、マイクロソフト、富士通—シーメンス、オリベッティなどの製品を取り扱っている。

**c)ZAI (Al Faisaliah PC Factory)**

2000年10月にサウジ国内初のパソコン組立工場が操業を開始した。生産能力はPC日産200台(年産6万台)である。マイクロソフト及びインテルから中東地域におけるローカルブランドとして認定されている。

**(3)医療部門**

Al Faisaliah Groupの医療部門は、1972年に設立され1997年Modern Electronics(上述)のMedical Products Groupから独立したAl Faisaliah Medical Systemsである。医療機器、製薬機器、化学分析装置、テスト・計測機器等の輸入販売事業を行っており、その対象部門は、麻酔・救急サービス、医療用ガス、外科手術・救急用品、手術室関連製品、歯科治療、整形外科、心臓外科、眼科、診断等多岐にわたっている。

Agilent Technologies(旧Hewlett Packard)、東芝メディカル・システム、Leica Microsystems、ソニー、住友電工等の医療機器を取り扱っており、リヤド、ジェッダ、アルコバール支店と国内主要都市に出張所を有している。

**(4) 技術インフラ(Technical Infrastructure)部門**

この部門の中心は1971年設立のModern Media Systems(MMS)である。傘下に以下のような部門がある。

a) Broadcast & Audio-Visual Solutions

b) MMS Broadcast

c) MMS Audio-Visual

d) Test & Measurement

e) Telecom Solutions

f) Lighting Division

またスイスのAgilent Technologies、米国のSunrise Telecom、Greenleeの総代理店でもある。

**(5) 石油化学部門**

The Modern Petrochemicals Company Ltd.(1983年設立)

国内の石油・石油化学企業・プラスチック加工業者向けに掘削用化学品、潤滑油、ポリオレフィン添加剤、石油精製用触媒を供給。納入先にはアラムコ、SABIC等がある。海外の取引メーカー（商品購入先）はAlbemarle Corp., GRACE Davision, Tessenderlo Group, DOVER Chemicals及びTANFAC。

#### (6) IT部門

この部門を担っているのはFBTC。

ITを駆使した経営コンサルタント等を行っている。

傘下にはEbttikarTechnology Company, Awalnet (Arabian Internet and Communications Services Company)及びAl Faisalia Business and Technology Services Company (FBTC)がある。

さらにEbttikar Technologyの下に、FAST(Al Faisaliah Advanced Systems Technology Est.), GST(Gulf Star Technology), AES (Alfaisaliah Electronic Service)の3社がある。

#### 5. ファイサル財閥が抱える問題点と今後の見通し

アル・ファイサリア・グループを含むファイサル財閥は創設者アブダッラーとその息子・孫の努力によりサウジ有数の財閥に成長した。サウド家王族の中には著名企業の経営者に名を連ねる者は少なくない。しかしその多くは政府の肝いりで設立された企業の会長等の名誉職であったり、公共事業にからんだ利権企業の名義貸し的なものであるケースが多い。このような中で酪農品製造、家電製品の輸入販売等、消費者に直結した事業を行なうファイサル財閥は異色である。またサウジアラビア初のPC組立工場を立ちあげるなど先端技術情報分野への進出も意欲的である。

しかしながらファイサル財閥が行なっている事業は民間財閥と直接競合する分野でもある。政治を支配するサウド家は、これまでビジネス分野については石油とその下流分野の国・公営事業にほぼ限定し、民間財閥のビジネス分野に踏みこまなかった。この棲み分けによりサウド家と民間財閥（特にジェッダの財閥）との間にある種の均衡が保たれてきたとも言える。

現在サウジ政府は若年失業者急増に対処するためのサウジ人化(Saudization)問題及び非効率な国・公営企業を改善するための民営化問題を抱え、民間部門の協力を強く必要としている。そのためアブダッラー国王は民間ビジネスマンを大臣に登用したり（本シリーズその4「アリレザ・ザイネル・グループ」参照）或いは財閥首脳と精力的に会談している。

ファイサル財閥自体はアブダッラーとその息子達の結束にはほころびは無く内部的には何ら問題は見当たらないが、上記の外的要因を考えると若干の懸念が予想される。例えばSaudization問題についてファイサル財閥はサウド家の一員としてグループ企業のサウジ人化に率先垂範しなければならないが、それはとりもなおさずライバルに対する一時的な競争力の低下をもたらすと考えられる。またグループが強化対象としているIT通信分野は、民間財閥も狙っている分野であり、今後の通信民営化政策の中で大きなビジネスチャンスであることは間違いない。そしてサウジアラビアのような縁故社会での民営化には王族の介入と言う不透明さが付きまとうことは避けられない。このように考えるとこれ

まで双方の暗黙裡に保たれてきたサウド家と民間財閥の均衡が失われ、ファイサル財閥が両者の矢面に立たされて苦しい状況に追い込まれる可能性は否定できない。グループの今後の舵取りが注目される。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田高行 〒183-0027 東京都府中市本町2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp